

トビウオ通信 (1月号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 16 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (かけまわし)

全体：一隻あたり量 金額は平年を上回る

島根県の小型底びき網漁業 (かけまわし) 57 隻*の平成 16 年漁期前半 (平成 16 年 9 月 1 日～12 月 31 日) の総漁獲量は 2,609 トン、総水揚げ金額は 11 億 4,698 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 45.8 トン、水揚げ金額は 2,012 万円で、漁獲量・金額とも前漁期および平年 (過去 10 年平均) を上回りました (図 1)。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 58 隻ですが、本統計は都合により 57 隻分の集計です。

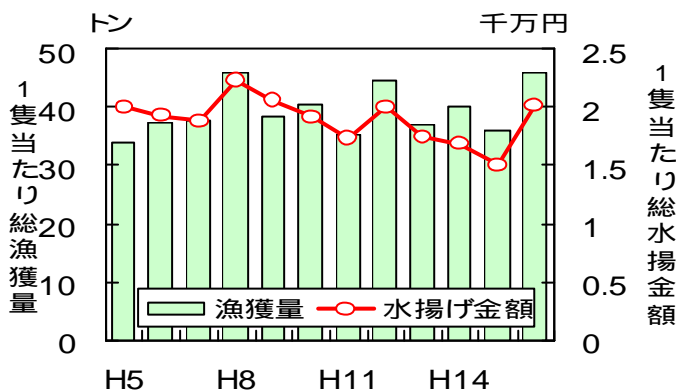


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量・水揚げ金額の動向

ムシガレイほぼ平年並み

ムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.5 トンで前漁期を 27% 上回りましたが、ほぼ平年並みに留まりました。ソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 2.0 トンで前漁期を 33% 上回りましたが、平年を 33% 下回っています。また、ヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は平年を 28% 上回る 0.7 トン、メイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は平年を 45% 下回る 0.7 トンでした。

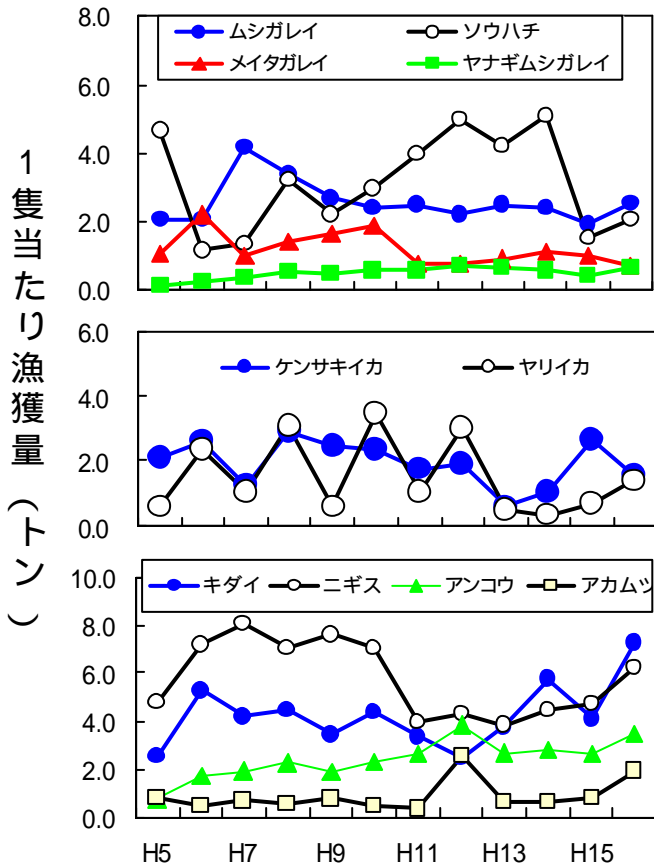


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

ヤリイカ前漁期上回る

平成 13 年以降低水準であったヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は平年を 14% 下回ったものの、徐々に 1 トンの大台を超えて 1.4 トン、前漁期の 2 倍の水揚げがありました。一方、ケンサキイカの 1 隻当り漁獲量は 1.6 トンで、好調であった前漁期を 41%、平年を 21% 下回りました。

キダイ、アカムツ好調!

近年増加傾向にあるキダイの 1 隻当たり漁獲量は前漁期及び平年を 76% 上回る 7.3 トンで、平成 5 年以降では最高の漁獲となりました。またニギスの 1 隻当たり漁獲量も 6.2 トンで前漁期を 31% 上回りました。アンコウの 1 隻当たり漁獲量も 3.5 トンで前漁期を 34%、平年を 42% 上回りました。

その他、アカムツの 1 隻当たり漁獲量は 1.9 トンで、最近 10 年間では平成 12 年に次ぐ水揚げとなっています。しかし、小型魚の漁獲が少ないことから、今後の動向に注意が必要です。

沖合底びき網漁業(2そうびき)

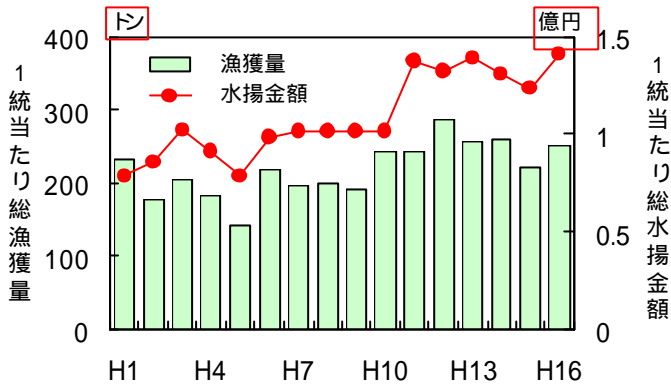


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

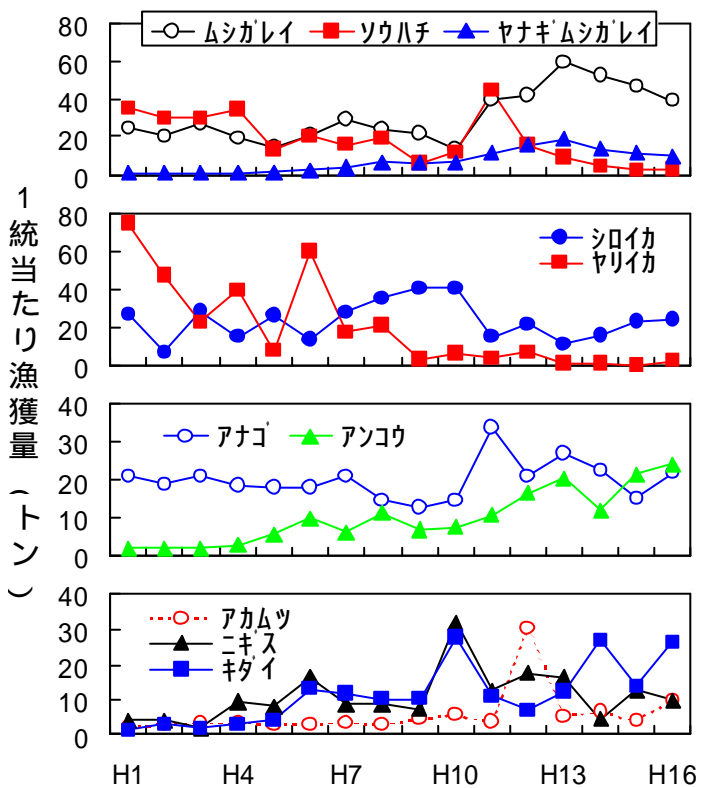


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

県西部

全体：1統あたり金額では平年の135%

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(操業統数6ヶ統)の平成16年漁期前半(平成16年8月15日～年12月31日)の総漁獲量は1,511トン、総水揚げ金額は8億4,510万円でした。また、1統当たりの漁獲量は252トンで前漁期を13%上回りましたが、平年(過去23年平均)を7%下回りました。水揚げ金額は1億4,085万円で前漁期を14%、平年を35%上回っています(図3)。

ムシガレイは減少傾向

ムシガレイの1統当たり漁獲量は39トンで、前漁期を15%下回りましたが、平年の1.5倍の水揚げでした。平成13年以降、小型魚の漁獲が減少しており、今後の資源動向には注意が必要です。ソウハチの1統当たり漁獲量は3トンで、過去最低であった前漁期とほぼ同水準で、平年の14%の水揚げに留まりました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は10トンで、前漁期を10%下回りましたが、平年の2倍の水揚げでした。

イカ類低調

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は24トンで、前漁期を3%上回りましたが、平年を12%下回りました。一方、ヤリイカの1統当たり漁獲量は2トンで、平成13年以降では比較的まとまった漁獲となりましたが、依然低い水準にあります。

アンコウ・キダイ好調!

近年増加傾向にあるアンコウの1統当たり漁獲量は24トンで、昭和56年以降最高の水揚げとなりました。また、アナゴの1統当たり漁獲量は22トンで、前漁期を45%、平年を9%上回る水揚げでした。キダイの1統当たり漁獲量は26トンで、前漁期の1.8倍の水揚げとなりました。また、アカムツの1統当たり漁獲量は10トンで、平年の8割程度の水揚げとなりました。一方、ニギスは前漁期を20%下回る10トンの水揚げとなりました。

県東部

全体：一隻あたり量 金額は平年を約2割上回る

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業(2ヶ統)の平成16年漁期前半の総漁獲量は460トン、総水揚げ金額は2億4,263万円でした。また、1統当たりの漁獲量は230トンで前漁期を43%、平年を19%上回りました。水揚げ金額は1億2,132万円で前漁期を18%上回りました。

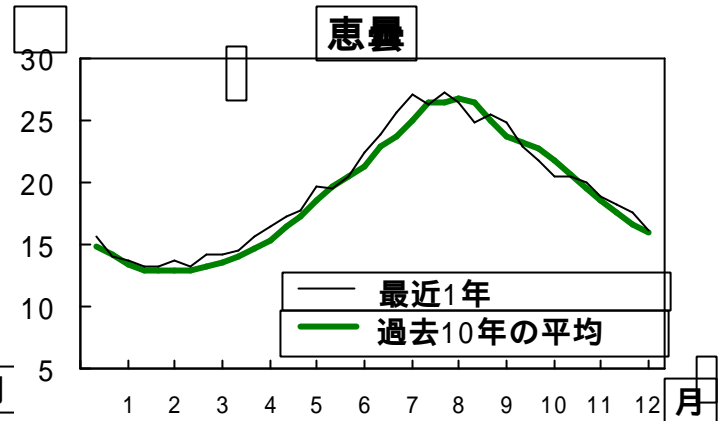
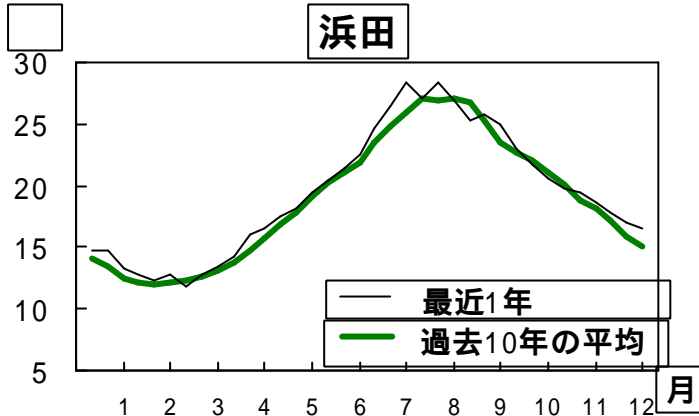
キダイ・アナゴ類好調!

キダイの1統当たり漁獲量は33トンで、前年の約2倍、アナゴ類の1統当たり漁獲量は28トンで、前年の2.5倍といずれも昭和63年以降で最高の水揚げとなりました。また、ムシガレイの1統当たり漁獲量は26トンでほぼ前年並み(前年比104%)、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は27トン(前年比75%)で、前漁期を下回りましたが、平年の1.7倍の水揚げがありました。一方、昨年好調だったアンコウは、1統当たり漁獲量は24トンで、前漁期の78%に留まりました。

《 12月の海況 》

12月	月平均	平年差	評価
浜田	17.2	+1.2	やや高め
恵曇	17.4	+0.7	やや高め

12月の平均水温は浜田、恵曇ともに17℃となりまし
た。12月は暖冬の影響により浜田では1.2℃、恵曇で
は0.7℃平年を上回り、「やや高め」の水温となりまし
た。



《 12月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はマサバ、マアジ主体に831トン、総水揚金額は5,475万円でした。1統当りの漁獲量は277トンで、平年(過去5ヵ年平均)の113%、前年の152%でした。同じく水揚金額は1,825万円(平年の77%、前年の109%)でした。総漁獲量は増加したものの、漁獲の中心であったマサバの平均単価が32円/kg(平年の41%)と低迷したため、総水揚金額は平年を下回りました。

西郷では、マアジ、ブリ、マサバ主体に総漁獲量3,535トン、総水揚金額は3億1,460万円でした。1統当りの漁獲量は589トン(平年の132%、前年の83%)、水揚金額は5,243万円(平年の128%、前年の94%)となりました。西郷ではマアジが平年を上回ったこととブリの平均単価が437円/kgと昨年の約2倍であったことから量、金額ともに平年を上回りました。

浦郷ではマサバ、マアジ主体に総漁獲量2,297トン、総水揚金額は1億538万円でした。1統当りの漁獲量は574トン(平年の230%、前年の209%)、水揚金額は2,635万円(平年、前年の152%)でした。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量はスルメイカを中心に31トンで平年の182%、前年の345%、水揚金額は1,568万円(平年の248%、前年の250%)でした。12月に入り平年を上回るスルメイカの漁獲が見られましたが、実際には12月19日に14トン(12月合計の半分)とまとまって漁獲されただけで、その他の期間では低調な漁模様でした。

西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量はスルメイカ主体の41トン(平年の98%、前年の123%)となりました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではキダイ、アンコウ、ムシガレイが漁獲の中心でした。1統当り漁獲量では前年を35%、水揚金額では同じく18%上回り、平年に対しても30%(量)、20%(金額)上回りました。資源的に増加傾向にあるキダイは前年の3.6倍、アンコウは1.5倍の漁獲がありましたが、ムシガレイは前年を27%下回りました。

恵曇港ではキダイ、アンコウ、ヤナギムシガレイが漁獲の中心でした。1統当り漁獲量では前年を76%、水揚金額で37%上回り、平年に対しても27%(量)、10%(金額)上回りました。魚種別ではキダイが前年の2.1倍の漁獲があり、アンコウは前年並み、ヤナギムシガレイでは36%前年を上回る漁獲がありました。

【小型底びき網漁業】

大田市・和江漁協ともに、出漁日数が前年と比較して5~6割増加したため、漁獲量で57~52%、水揚金額は43~52%上回りました。大田市漁協の主な漁獲物はニギス、キダイ、ソウハチで、ニギスは前年同月の漁獲量を17%、

ソウハチは26%下回りましたが、キダイでは4.5倍の漁獲がありました。

和江漁協ではキダイ、イボダイ、ソウハチが主に漁獲されました。キダイは前年の2.3倍、イボダイは1.2倍、ソウハチでは約2倍の漁獲がありました。特にソウハチは水揚金額の2割を占めています。

その他の魚種では、大田市漁協ではヤリイカ、アンコウが（前年比122%、93%）、和江漁協ではアンコウ、ニギスが（前年比133%、115%）まとめて漁獲されています。

【定置網漁業】

出雲地区では平年と比較すると漁獲量は並み、水揚金額は下回りましたが、クラゲ被害の大きかった前年と比較すると約2倍の漁獲量となっており、水揚げ金額も上回っています。石見・隠岐地区では、漁獲量・水揚金額とも前年および平年を下回りました。出雲地区ではソウダガツオ、マアジ、ブリが主体で、ソウダガツオ、マアジは前年の約5倍の漁獲量となっています。その他ではサワラ類やカマスが漁獲されており、カマスは前年の約9倍の漁獲量となっています。石見・隠岐地区ではマアジが主体となっており、石見地区では前年の約2倍、隠岐地区では約6倍の漁獲量となっています。その他に隠岐地区ではスルメイカ、ソウダガツオが漁獲されています。

【釣・縄】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を下回りました。県西部では漁獲量・水揚金額は前年を上回りましたが、平年並の漁獲量・水揚金額となっています。隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回っています。県東部ではサワラ類が主体ですが、前年の約9割の漁獲量となっています。その他ではブリなどが漁獲されています。県西部ではクロマグロが主体で、前年を大きく上回り、10月から好漁が続いています。その他ではブリ、メダイなどが漁獲されています。隠岐ではクロマグロ、メダイが主体で、クロマグロは前年の約8倍の漁獲量となっています。その他では、ソデイカ、キダイなどが漁獲されています。

漁獲統計

平成16年12月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	29	マサバ、マアジ	28.7トン	831トン
	西郷	79	マアジ、ブリ、マサバ	44.7トン	3,535トン
	浦郷	48	マサバ、マアジ	47.9トン	2,297トン
イカ釣り (5トン以上)	浜田	111	スルメイカ	283kg	31.4トン
	西郷	105	スルメイカ	390kg	41トン
沖合底巻き網	浜田	31	キダイ、アンコウ、ムシガレイ	13.9トン	430トン
	恵曇	20	キダイ、アンコウ、ヤナギムシガレイ	6.1トン	122トン
小型底巻き網	大田市	318	ニギス、キダイ、ソウハチ	502kg	160トン
	和江	421	キダイ、イボダイ、ソウハチ	646kg	272トン
定置網	浜田	39	マアジ、ブリ、サワラ類	260kg	10.1トン
	美保関	111	マアジ、ソウダガツオ、カマス	656kg	72.8トン
	浦郷	65	マアジ、スルメイカ、ソウダガツオ	142kg	9.2トン
釣・縄	浜田	1099	ブリ、メダイ、アマダイ	18kg	20.5トン
	五十猛	404	クロマグロ、ケンサキイカ、メダイ	57kg	23.2トン

: 1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。